

IV-18

地方中核都市における歩行者の安全分析

八戸工業大学土木工学科 学正員 ○大山幸信
八戸工業大学土木工学科 正会員 須田 熙

1. 研究の目的

日本は戦後の高度経済成長を経て、世界第2位の経済大国となり、社会資本が次々と整備されていった。しかし、歩道の整備は今現在も遅れており、歩道のない街路を歩くときは終始車に注意を払わなくてはならないため、落ち着いて歩くことができない。これは、生活環境や安全上重大な課題である。

そこで本研究では、地方中核都市である青森市と八戸市を例にあげ、両市の歩道整備状況を調査し、歩行者の安全性を比較検討することを目的とする。

2. 調査方法

両市の歩道の整備状況を調査するにあたっては、全ての道路を調査するのは困難であるため、両市で運行されているバス路線を調査対象とすることにする。バス路線は、幹線道路であるため、交通量も多く様々な年齢層の市民が利用し、交通の発生の拠点ともなっているため、歩行者に対する安全性が問われる。

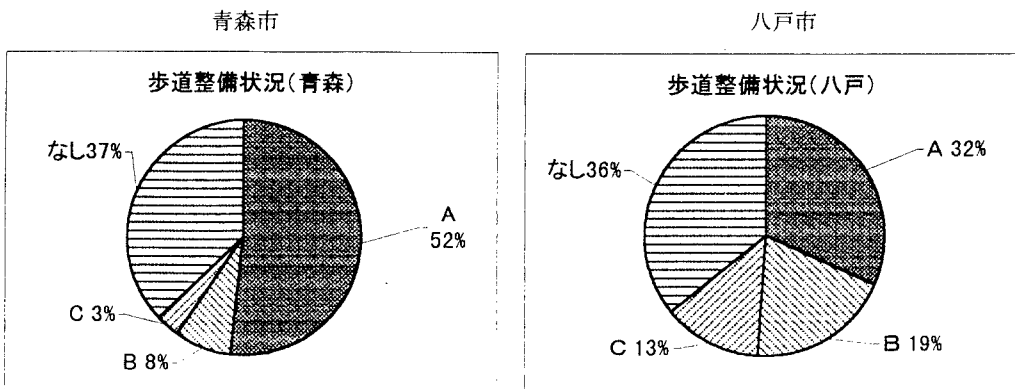
本研究では、歩道の状況を以下のように分類する。

- Aランク：幅1m以上
- Bランク：幅1m未満0.5m以上
- Cランク：幅0.5m未満
- なし：歩道なし

*本研究では、歩道とは車道と段差や縁石、ガードレール等で保護されている歩行者専用の道路を歩道とし、白線等だけで区別されているものは、歩道として認めないものと定義する。また、歩道幅は1.5m以上が基準とされているが、今回の調査では水準を1mに下げている。

*各小中高校付近の半径500m地域の道路や、市街化区域、市街化調整区域の各都市計画区域の歩道整備状況も同様に調べる。

3. 調査結果



4. 考察

以上の結果をもとにBランク以上を、歩道としての機能を何とか果たすものとして合格ラインとし、これを基準に考察すると、以下のとおりである。

(1) 市全体

市全体では、合格基準を満たした道路は青森市では約60%、八戸市では約50%であり、両市とも幹線道路沿いの歩道は、半分を上回る程度しか整備されていないといえる。また、全く歩道が整備されていない幹線道路は両市とも40%近くもあった。

(2) 都市計画区域

青森市で、歩道の評価がBランクを超えた区域は市街化区域で約70%、市街化調整区域で約40%であった。一方八戸市では、歩道の評価がBランクを超えた区域は市街化区域で約70%、市街化調整区域で約30%という結果になった。

両市とも市街化区域は、地域の市街化を積極的に推し進めているせいか歩道の整備が進んでいる。それでもまだ約30%は歩道整備が必要などころがある。

市街化調整区域はほとんど整備されておらず、両市ともバス路線の約60%の歩道が整備されていなかった。

(2) 学校周辺

学校周辺の様子は、両市の間でやや異なる結果となった。青森市の学校周辺のバス路線は、70%以上がBランク以上の歩道の整備が行われている。それに対して、八戸市は、Bランクを超えたバス路線は60%に満たない結果となった。そして、Cランク以下の不合格になったバス路線は、青森市では30%以下だったのに対して、八戸市では40%以上となった。

生徒を車両から保護する上でも今以上の歩道の整備は、両市とも早急に必要であるが、特に八戸市が必要で、小学校付近の整備は他と比べると遅れている。

(3) 電柱とどぶ板の併設状況

電柱やどぶ板が併設されている歩道は、青森市では約30%、八戸市では約40%という結果となった。これだけでも歩行者にとっては危険な値である。しかしこれらのデータには歩道なしの数値が含まれていないため、普段歩行者がいかに危険な道路を利用しているかが分かる。

5. 結論

今回の調査では、Aランクを幅1m以上としているが、特に雪国ではこの水準が甘すぎる場合がある。水準をあげれば当然、整備水準はよりさがる。以上のことも踏まえると、今回の調査結果では、両市とも歩道の整備状況はまだ不十分だということがいえる。歩行者を車から保護するためにも、また歩行者が車を気にせず歩くためにも、ガードレールや縁石、段差等が備えられた歩道の整備は必要不可欠なものである。

また、今回の調査で新たに分かったことは歩道を電柱やどぶ板がふさぎ、歩行者や軽車両の通行を阻害している歩道が多いということである。これでは歩道が機能しなくなり、通行者が車道にでてしまい大変危険である。その上、電線があたかもクモの巣のように街を覆い美観も損ねている。歩行者の安全、街の美観、また狭い国土を有効に利用するためにも、欧米のように電柱は地下化し、文化国家として恥ずかしくない街にしなければならない。

参考文献

- (1) 桜井雄三・柴田慶継・鈴木信康：平成9年度 卒業論文 八戸市における歩道整備の分析
- (2) 大石健太郎・武田好伸・原口浩司：平成10年度 卒業論文 青森市における歩道整備の分析